

乍蒙意外卑辱  
謹呈及時下冷  
日相承

且起居如何  
益由清康  
侍鹿島地方之  
依り毎々  
況流を試み  
島へ赴き  
今竹鶴と  
巻順子  
調知  
云原の擁する

調和をえんは是之直極殿  
は原の擁する所とあり其  
心中は余程迷惑に考へ  
持たざる様、推察に及ぶは  
原の意の背きたる何れと爲  
置は生業由らぬも然  
念之推察に及ぶは舞竟片  
かに至りたるは迷因に種に百端  
有りたるは是此節之るは  
原より仕掛けたる喧嘩に  
是る者原の方より下向に讓り  
調和を謀る様を考へて何  
れも扱はざるは然るは原に  
あり究角直極殿を考へて  
神へ旧主の威光を以て永田  
村を歴殿するの意に察  
せらるゝ交り直の妙に成すは考  
はる仲我之妙に考へて此上

神へ旧主の威光を以て永田  
才を磨服するの意を察  
せらるゝ交り直の女に成すは  
此子仲裁之初生世を乞此上  
直後及上京之上  
閣下より後を頼りし  
世々之れと有り長軌も小  
才より子と出ると安  
可中上と信は先以此見  
花田の如報や上と云ふ  
女成す及以恐懼不宣

十月廿七日

時敏  
持具

大隈先生閣下